



2021年3月期 決算説明会  
東京製綱株式会社  
(TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.)

2021年5月28日

# 2021年3月期決算説明会 エグゼクティブサマリー

## ① コロナ禍で大幅減収(△6.2%)も、営業利益は増益

営業・経常とも14年3月期から8年連続黒字維持、22年3月期も増収増益見通し

## ② スチールコード事業における構造改革の進展

中国子会社売却、国内子会社合理化により、月次営業CFの黒字化に目処

## ③ 成長戦略の事業化に目処

大型案件により北米CFCC子会社は初の営業黒字・セグメントも黒字化見通し

## ④ 新経営体制の構築

上記①～③、ガバナンスコード改定等を踏まえ、次世代にバトンタッチ

# 1. 21年3月期決算、及び今期見通し概要

## 2. セグメント別概況

## 3. 成長戦略の進捗

## 4. 新経営体制

# 1-1. 2021年3月期 決算数値ハイライト

(金額:百万円)

	2020年3月期		2021年3月期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	63,090		59,183		△3,907	(△6.2%)
営業利益	319	(0.5%)	700	(1.2%)	+381	(+119.4%)
経常利益	446	(0.7%)	209	(0.4%)	△237	(△53.1%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△2,434	(△3.9%)	408	(0.7%)	+2,842	—

## 1-2. 2021年3月期 PLのポイント

コロナ禍の需要急減も、中国子会社売却、鋼索鋼線・CFCCのコスト削減、北上工場での効率化等の抜本改善により増益で着地

**売上高** 591.8億円 〔前期比 △6.2%〕

国内事業については、コロナ禍による需要減及び中国スチールコード事業から撤退したことにより減収

**営業利益** 7.0億円 〔前期比 +119.4%〕

全社でのコスト削減、中国子会社売却、CFCC事業の改善等で下期急回復（上期：△8億円、下期：15億円、通期：7億円）

**親会社株主に帰属する当期純利益** 4.1億円 〔前期実績 △24.3億円〕

前期の損失計上から回復、純利益でも通期で黒字を確保

## 1-3. 2021年3月期 CFのポイント

営業活動：黒字（棚卸資産の減少、減価償却費の影響等による）

投資活動：中国法人売却収入等により大幅改善

財務活動：借入金弁済（31億円）等

（金額：百万円）

	2020年3月期	2021年3月期
現金及び現金同等物の期首残高	3,308	6,259
営業活動によるキャッシュ・フロー	559	2,834
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,116	△396
フリー・キャッシュ・フロー	△1,557	2,438
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,460	△2,679
その他（為替換算差・新規連結に伴う増減）	48	68
現金及び現金同等物の期末残高	6,259	6,086

## 1-4. 2021年3月期 設備投資の概況

2021年3月期  
設備投資額

1,628百万円  
(前年同期比△989百万円)

### 主な投資

スチールコード北上工場 生産性向上投資	5.3億円
鋼索鋼線土浦工場 維持更新投資	2.6億円
研究所 設備投資	1.5億円
その他維持更新投資など	6.8億円

## 1-5. 2022年3月期 見通し

国内インフラ投資の堅調な推移、スチールコード事業の収益改善、北米CFCC案件の貢献により増収増益

(金額:百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	59,183		60,000		+817	(+1.4%)
営業利益	700	(1.2%)	1,500	(2.5%)	+800	(+114.2%)
経常利益	209	(0.4%)	1,500	(2.5%)	+1,291	(+616.2%)
親会社株主に帰属する当期純利益	408	(0.7%)	1,100	(1.8%)	+692	(+169.6%)

## 1-6. 配当方針

- 21年3月期の配当は、景況悪化とコロナ禍の長期化に備える観点から、遺憾ながら無配とさせていただきます。
- 22年3月期の配当は、前述の業績予想を前提に、復配の見通しです。一株当たり20円を予定しております。
- 感染再拡大の懸念などもあって不透明な状況が続いていることから、今後の業績によっては変動する場合がございます。

年 度	2021年3月期	2022年3月期 予定
配 当(年度当たり)	0.0円/株	20.0円/株
配当性向(連結)	—	29.3%

# 1. 21年3月期決算、及び今期見通し概要

## 2. セグメント別概況

## 3. 成長戦略の進捗

## 4. 新経営体制

## 2-1. セグメント別実績

(金額:百万円)

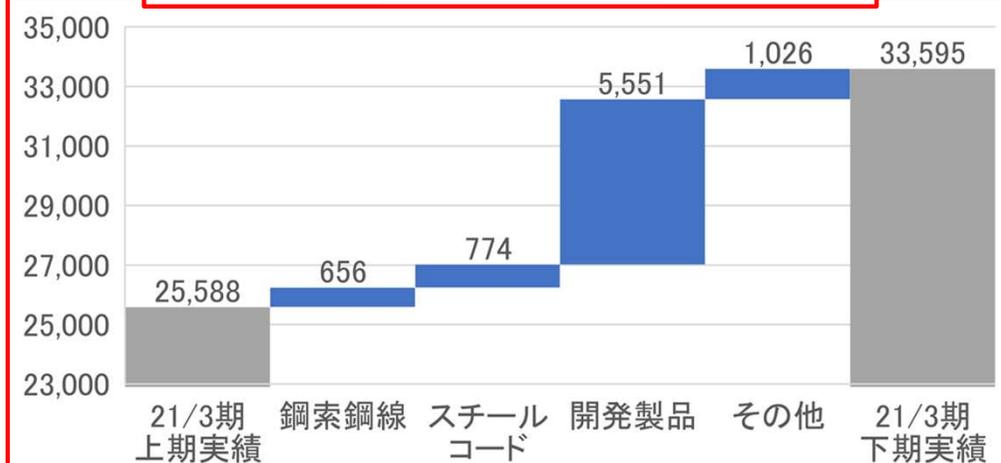
	2020年3月期		2021年3月期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線	27,266	1,411	25,698	1,260	△1,568	△151
スチールコード	9,717	△1,660	7,458	△1,111	△2,259	+549
開発製品	15,810	△255	17,613	△134	+1,803	+121
産業機械	4,269	316	3,197	82	△1,072	△234
エネルギー 不動産	6,025	507	5,214	602	△811	+95
合計	63,090	319	59,183	700	△3,907	+381

## 2-1. 21年3月期上下期比較(セグメント別売上高)

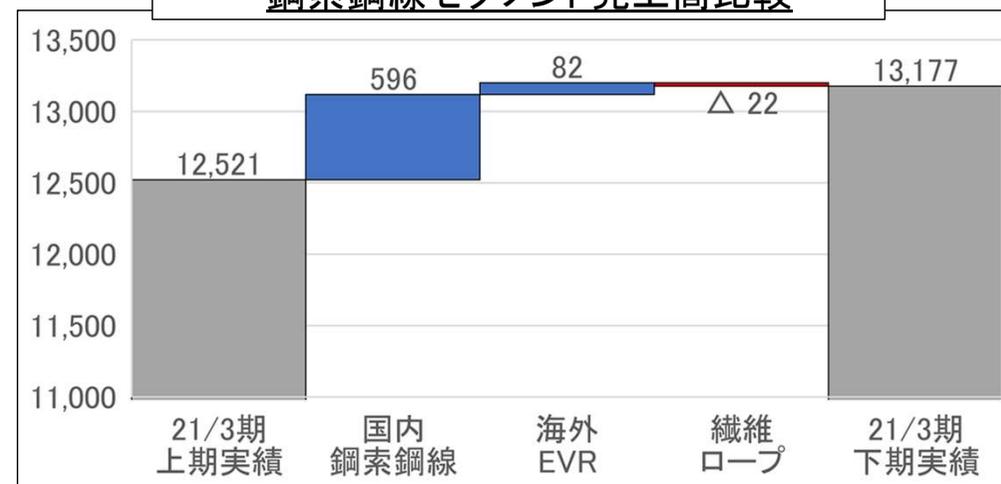
下期での回復が如実に表れている

(各表の金額単位:百万円)

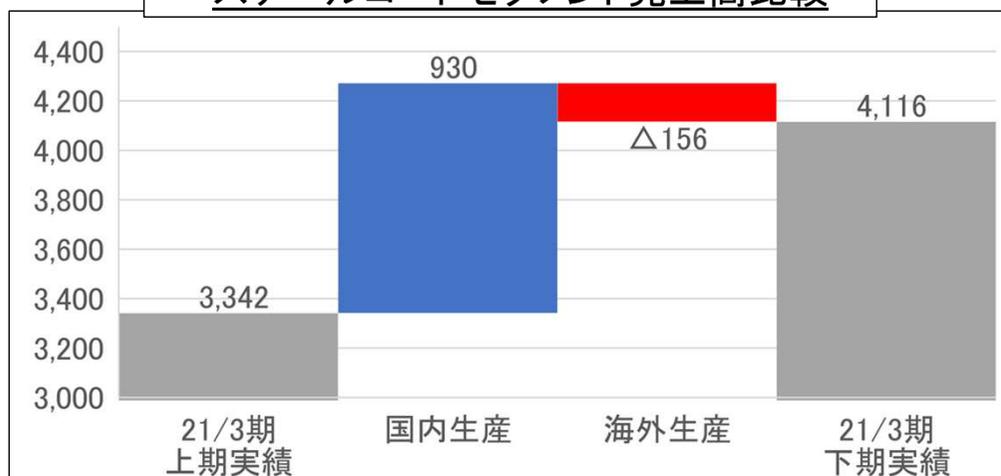
### 全社売上高比較



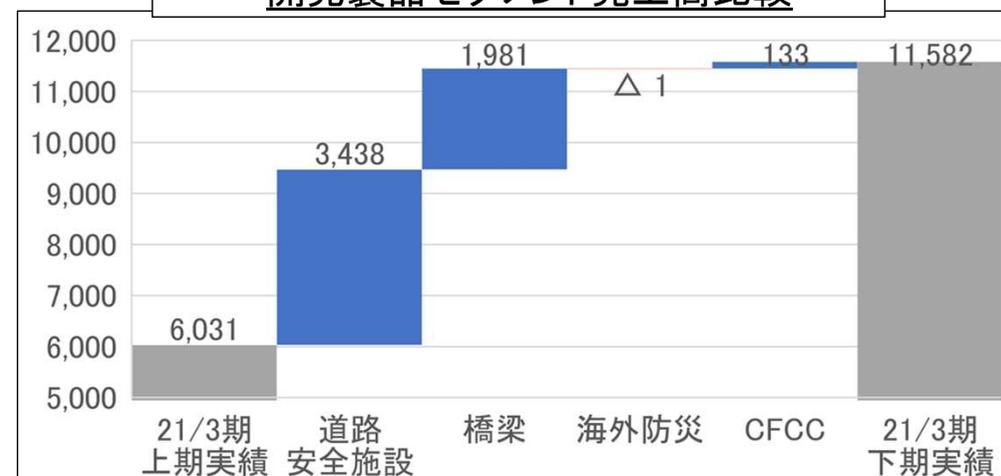
### 鋼索鋼線セグメント売上高比較



### スチールコードセグメント売上高比較



### 開発製品セグメント売上高比較



## 2-1. 21年3月期上下期比較(セグメント別営業利益)

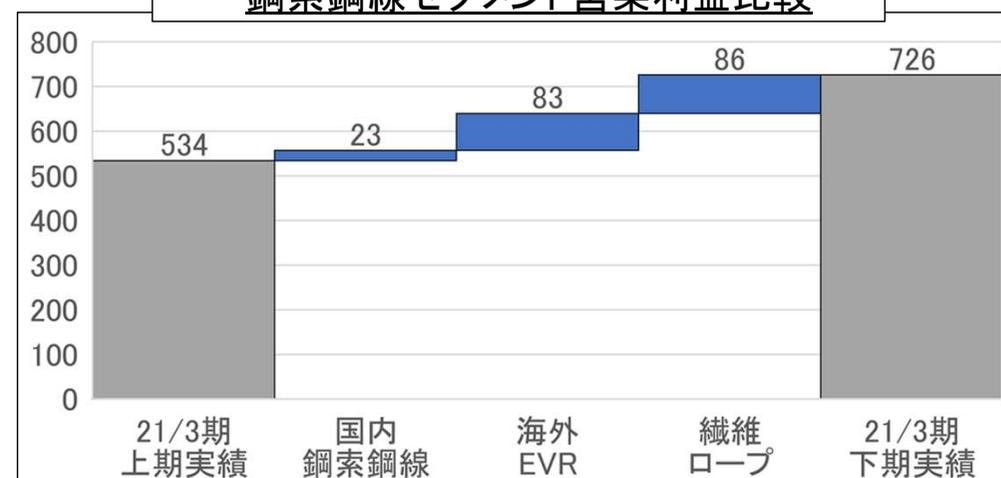
下期での回復が如実に表れている

(各表の金額単位:百万円)

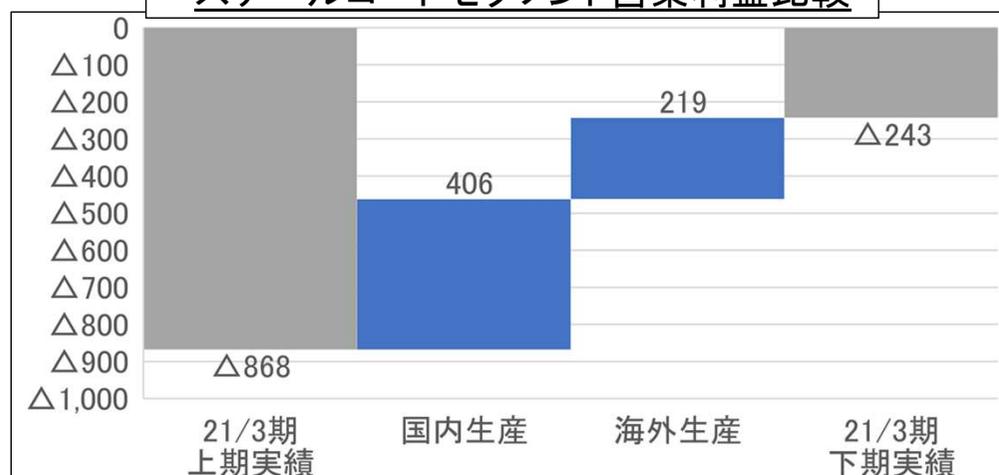
### 全社営業利益比較



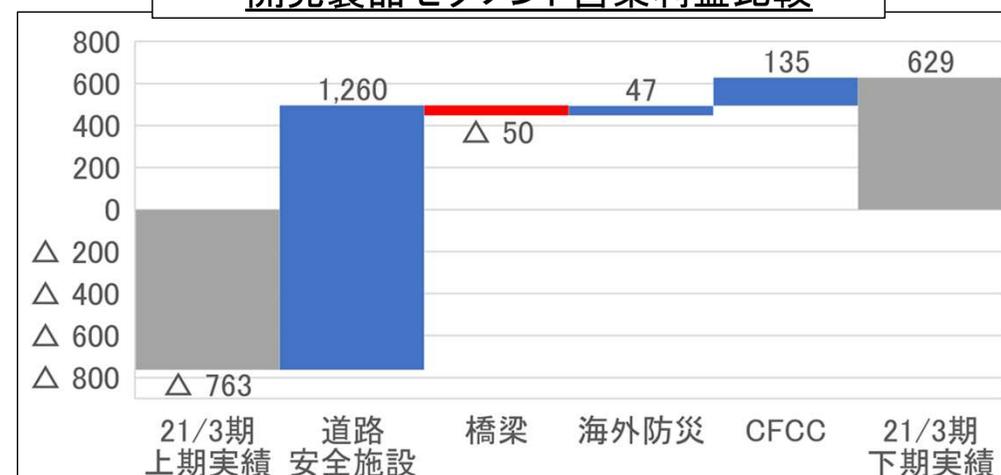
### 鋼索鋼線セグメント営業利益比較



### スチールコードセグメント営業利益比較



### 開発製品セグメント営業利益比較



## 2-1. セグメント別見通し

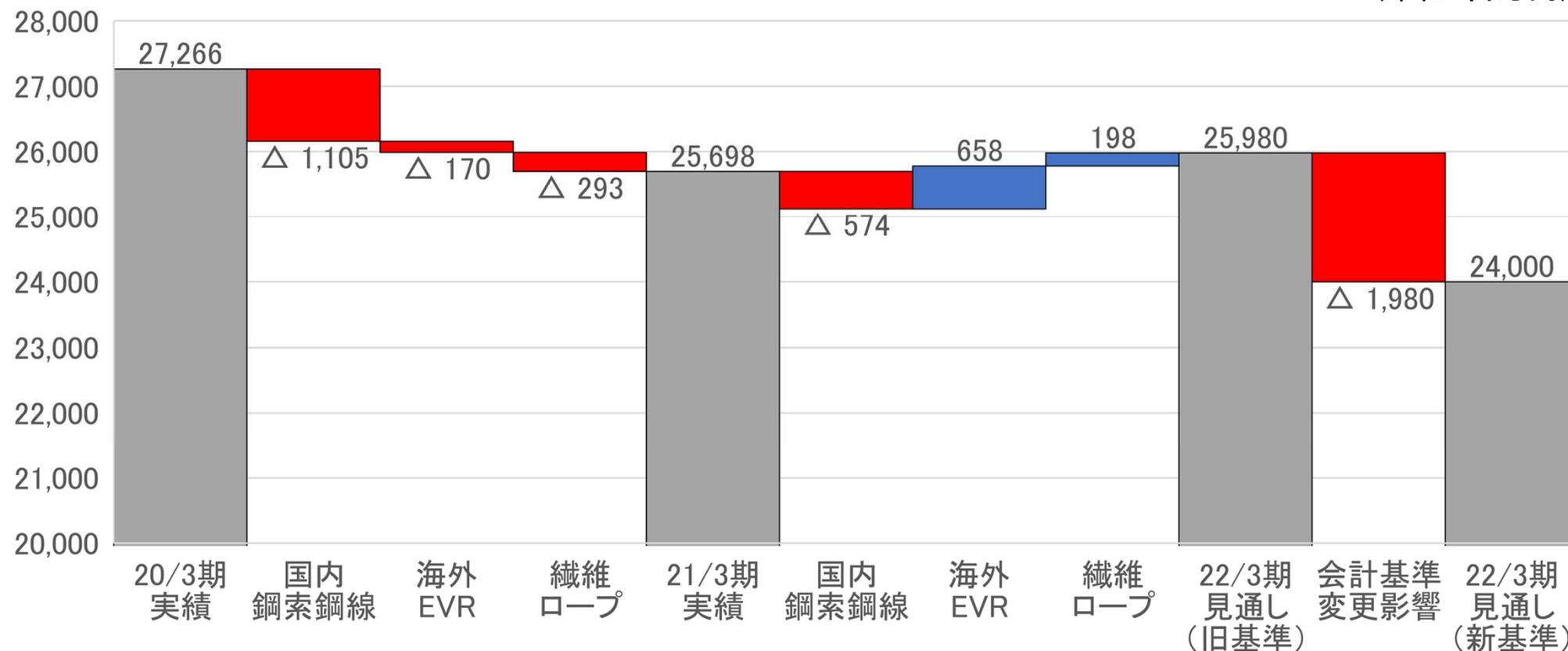
(金額:百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線	25,698	1,260	24,000	1,200	△1,698	△60
スチールコード	7,458	△1,111	7,800	△700	+342	+411
開発製品	17,613	△134	18,900	300	+1,287	+434
産業機械	3,197	82	3,700	200	+503	+118
エネルギー 不動産	5,214	602	5,600	500	+386	△102
合計	59,183	700	60,000	1,500	+817	+800

## 2-1. 鋼索鋼線セグメント(1/4):概況(売上高)

- 21/3期:コロナ禍により、国内鋼索鋼線が特に低迷し、大幅減収
- 22/3期:国内鋼索鋼線の低迷は継続も、海外EVR、繊維が挽回  
事実上は増収も、会計基準の変更影響により減収見通し

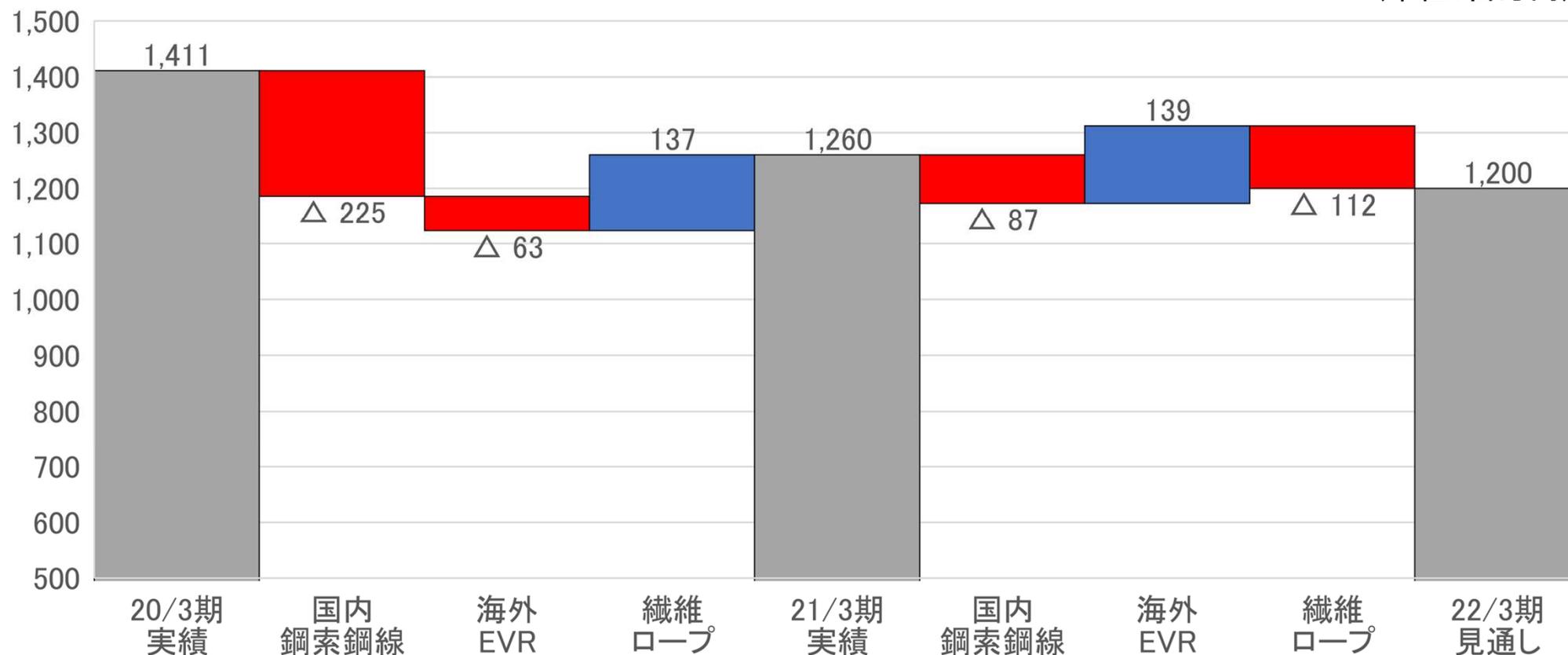
(単位:百万円)



## 2-1. 鋼索鋼線セグメント(2/4):概況(営業利益)

- 21/3期:国内鋼索鋼線は減益も、繊維は高付加価値品により増益
- 22/3期:国内鋼索鋼線の値上げ、及びコスト削減に取り組むも、長大橋案件、繊維のスポット案件剥落を補えず減益

(単位:百万円)



## 2-1. 鋼索鋼線セグメント(3/4):販売概況

22年3月期上期は業種によりコロナ禍の影響残るも、下期は全業種で需要回復を予測、受注復活と値上による利益率の改善を見込む

- エレベーターロープ  
国内はコロナ禍による各種工事の停滞があったが、現在は回復傾向にある。海外は、主市場の中国は回復済み
- 建設機械向けロープ  
上期はコロナ禍による海外向け建機の減産による需要減少を見込むが、下期以降、海外向け含め需要回復に向かう見通し
- 鉄鋼向けロープ  
21年3月期上期が需要減の底であり、22年3月期は鉄鋼需要増加による回復を見込む
- 鋼線  
テレワーク対応の通信網強化に関連する需要増は継続している

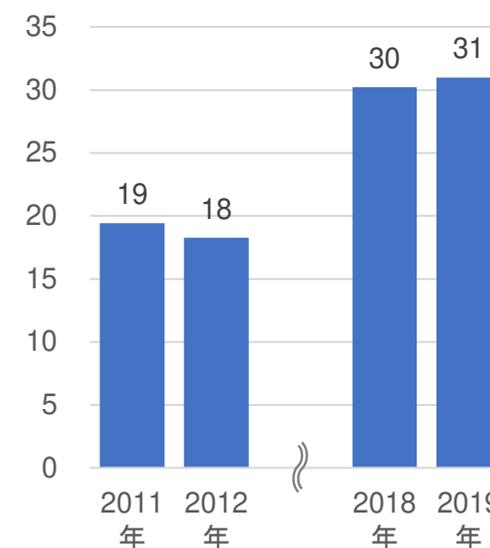
## 2-1. 鋼索鋼線セグメント(4/4):トピックス

### 林業用高機能集材ロープ(繊維ロープ)



- 繊維ロープの軽量性と取回し性能を活かすべく、ワイヤロープの代替品として開発
  - ✓ ワイヤロープの約20%の軽さ(ドローン活用、女性職域拡大)
  - ✓ ワイヤロープとほぼ同程度の引っ張り強度と伸び率
- その性能が評価され徐々に認知度が向上、毎年10%程度の販売数量増の実績を有する
- 国産材の利用はこの10年で1.5倍以上の増加、国内林業は再成長が期待できる
- 一方、低迷期の影響で林業インフラの未整備、担い手不足が深刻化しており、生産性向上に資する当該製品の成長も期待される

国産材供給量(単位:百万立法m)

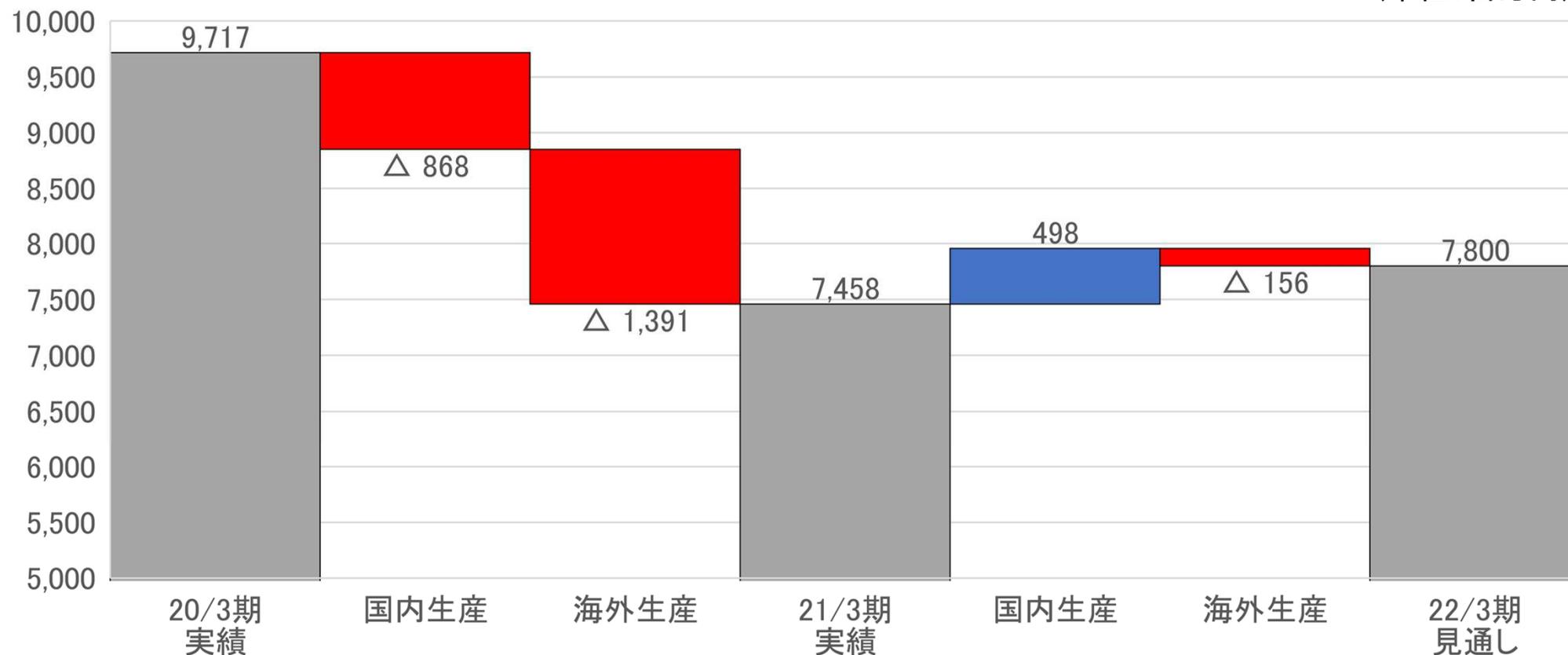


出所)令和元年度 森林・林業白書

## 2-2. スチールコードセグメント(1/4):概況(売上高)

- 21/3期:コロナ禍による販売低迷は下期以降回復も、  
上期の影響大きく、海外事業撤退もあって大幅減収
- 22/3期:タイヤメーカーの需要旺盛に支えられ増収

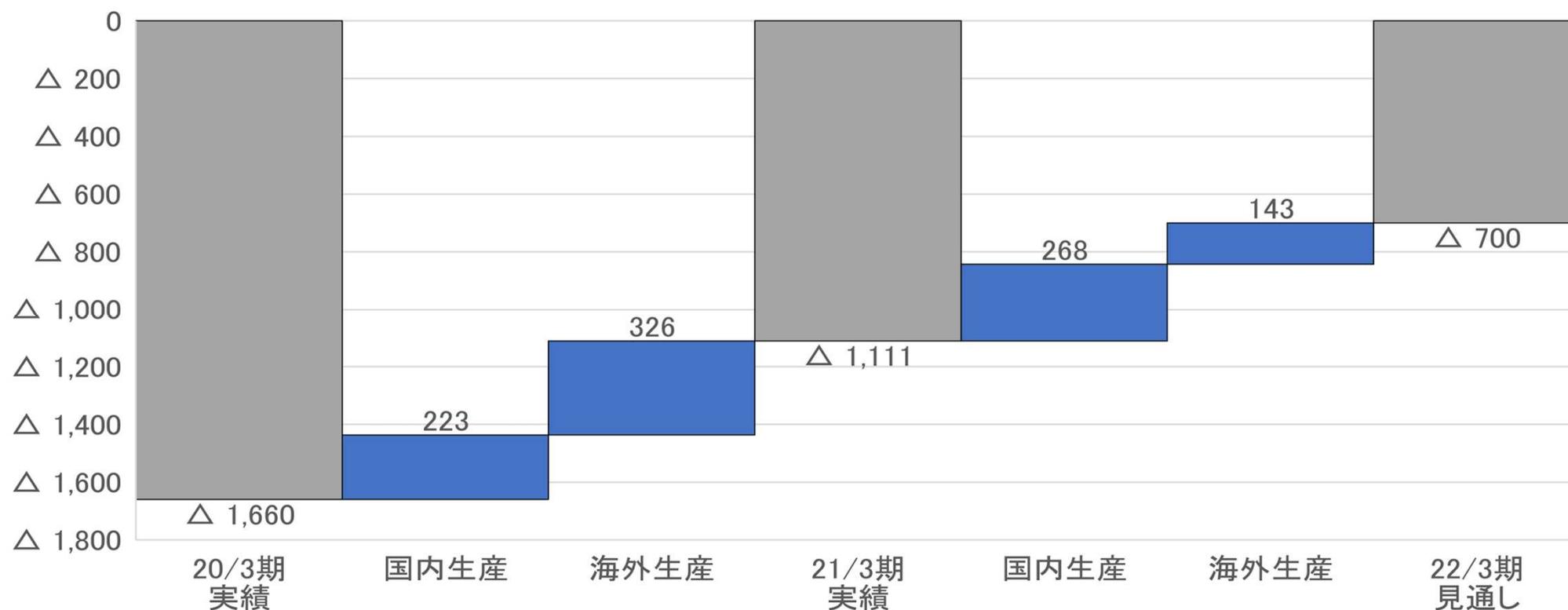
(単位:百万円)



## 2-2. スチールコードセグメント(2/4):概況(営業利益)

- 21/3期:不採算であった中国生産からの撤退が完了し、国内生産においても合理化投資の効果発現等により収益改善
- 22/3期:数量増、合理化投資の効果発現により収益改善継続

(単位:百万円)



## 2-2. スチールコードセグメント(3/4):販売概況

旺盛なタイヤ需要に支えられタイヤコード回復

- 上期には、コロナ禍前の水準にほぼ接近
  - ✓ 国内タイヤメーカーは需要旺盛な交換需要の取組みを強化し、高い水準での生産を継続している
  - ✓ これを受け、タイヤコードの受注も堅調推移と見込む
- 下期には、半導体不足の解消に伴い、国内自動車メーカーの生産が更に回復すると想定され、引き続きタイヤコード生産は高稼働を見込む
- 鋼材価格は上昇基調にあり、顧客の理解を得ながら適切な価格転嫁を進め、マージンの確保・改善に努める

## 2-2. スチールコードセグメント(4/4):トピックス

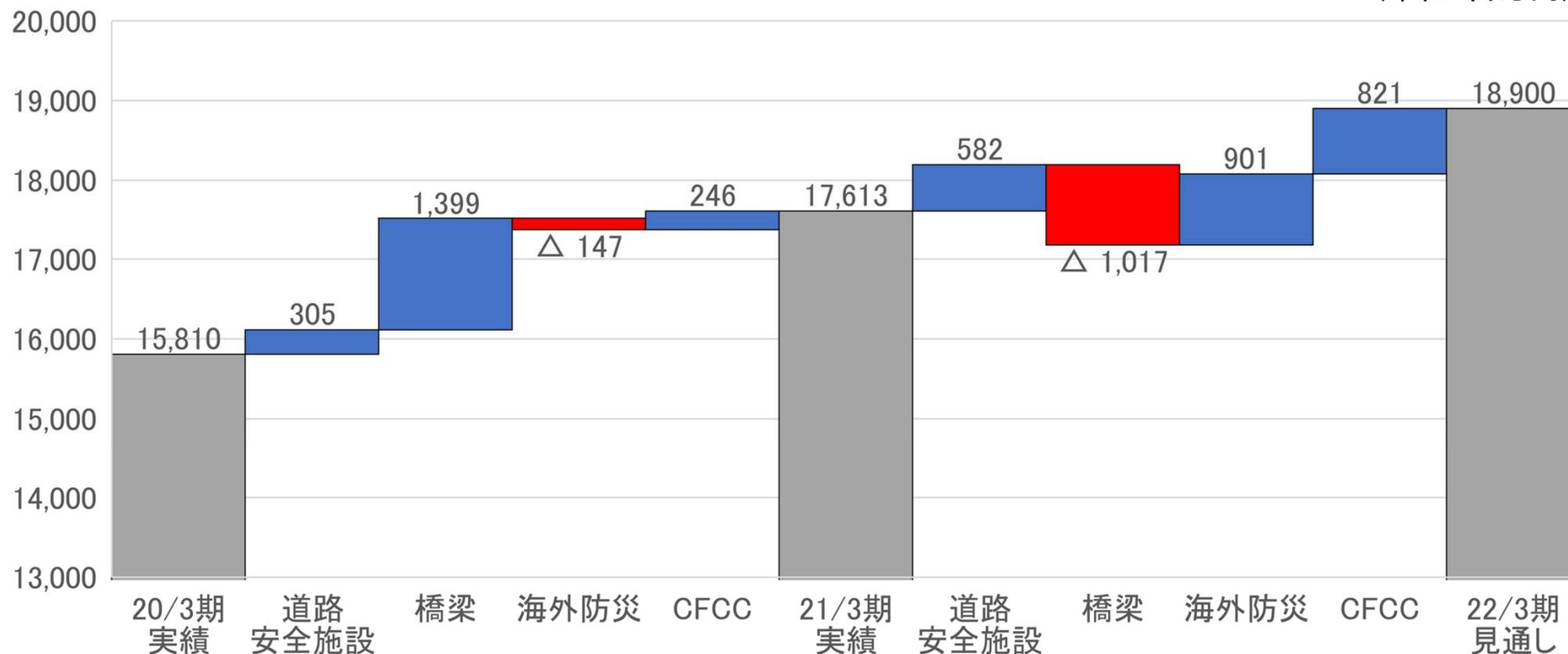
### 海外子会社の譲渡完了と国内工場の競争力強化

- 当社子会社である東京製綱海外事業投資株式会社、及びその100%子会社である東京製綱(常州)有限公司を、中国の大連光伸企業集団有限公司へ譲渡、決済も無事に完了(※既報)
- 譲渡完了により不採算部門がなくなり、年間4億円程度の損益・CFの改善が見込まれる。
- 売却資金等を原資に、国内工場(北上市)で新設備の導入や生産体制の効率化を加速させ、競争力の強化と国内での増産体制の再構築を図る
- コロナ禍影響で海外製新設備の導入は遅延傾向にあるが、22年3月期中での単月黒字化を目標に投資と生産性改善を継続中

## 2-3. 開発製品セグメント(1/5):概況(売上高)

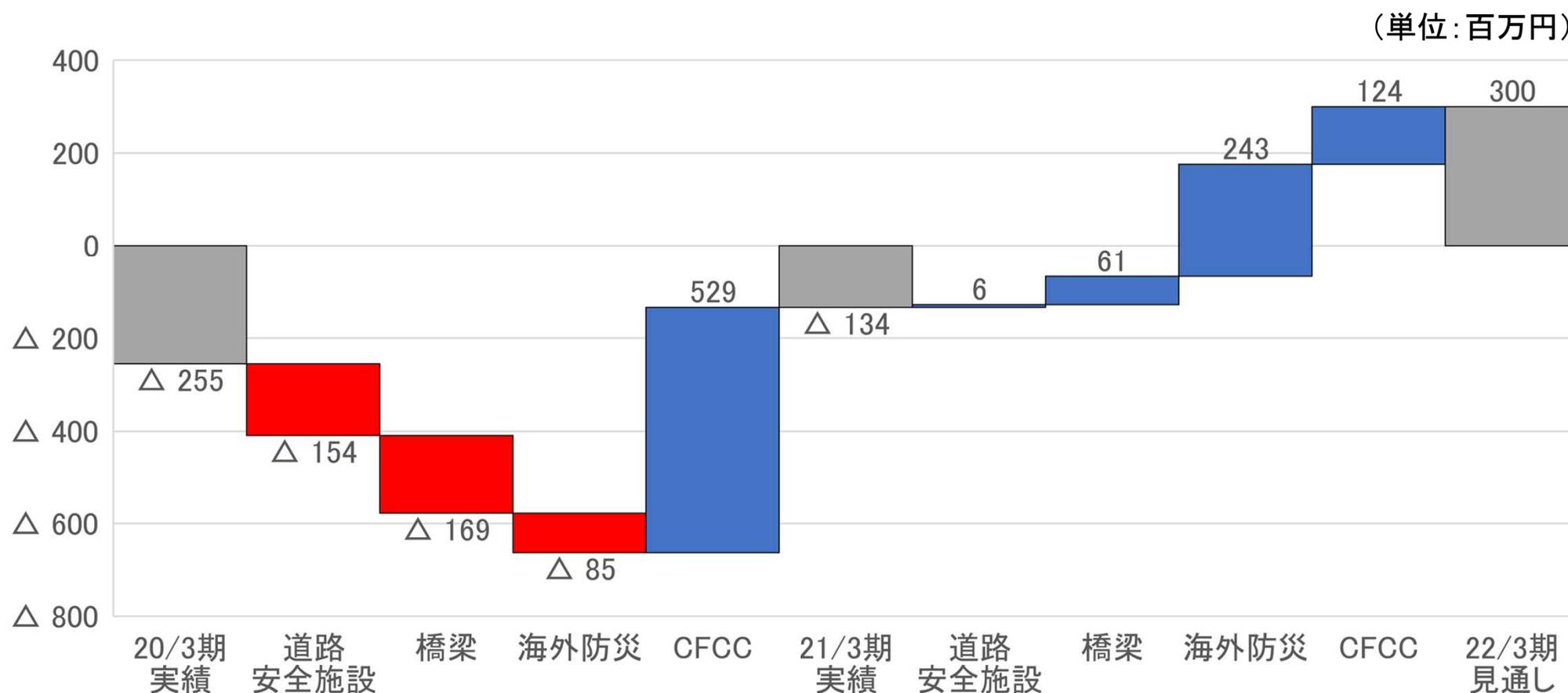
- 21/3期:遅延していた工事関連が第3Q以降に進捗したこと、及び、海外向け大型橋梁案件の売上もあり増収
- 22/3期:米国の土木用CFCC、比国の防災製品受注等により増収

(単位:百万円)



## 2-3. 開発製品セグメント(2/5):概況(営業利益)

- 21/3期:コロナ禍に伴う費用増等の影響により軒並み減益となるも、CFCC事業は土木用途の売上増加や費用削減により増益
- 22/3期:売上増・粗利改善等により全部門増益、セグメント黒字化



## 2-3. 開発製品セグメント(3/5):道路安全施設概況

国土強靱化関連予算、災害復旧予算により安定成長

- 「防災・減災、国土強靱化3か年緊急対策」、及び激甚災害復旧予算により、道路安全施設の売上は、直近3年間で年率3.3%で成長
- 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を受けた予算措置により、設計織込済み案件の発注が期待できる。
- 22年3月期も同様に、年率3.3%超の成長を志向する。  
(年率3.3%は必達目標と見込む)

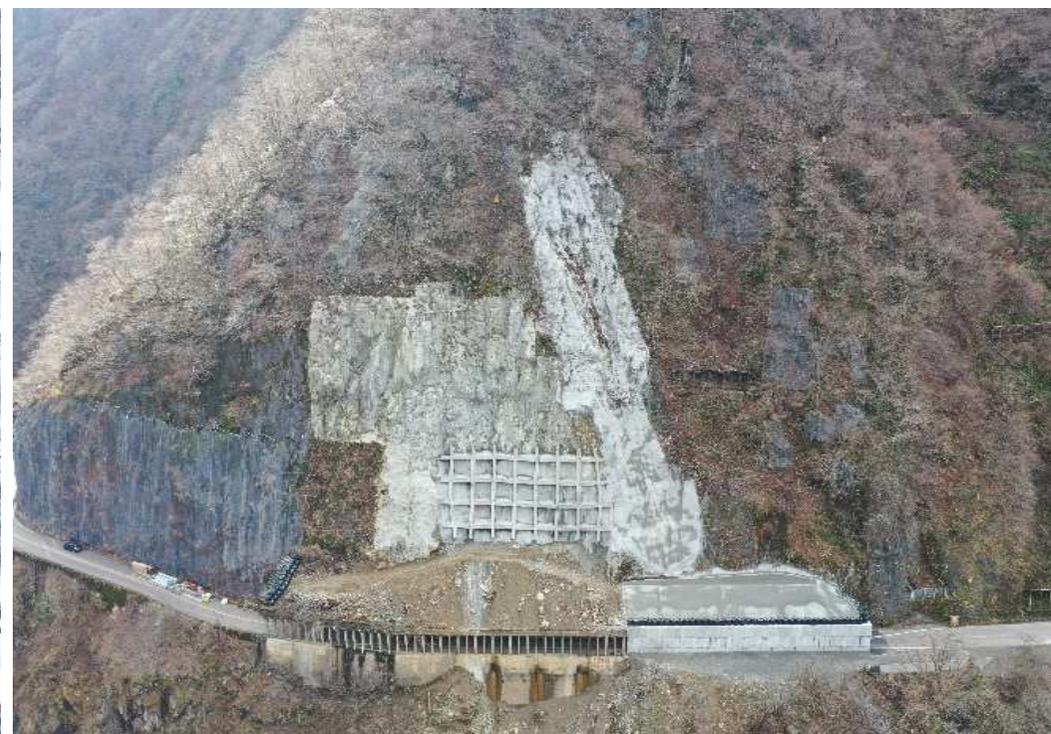
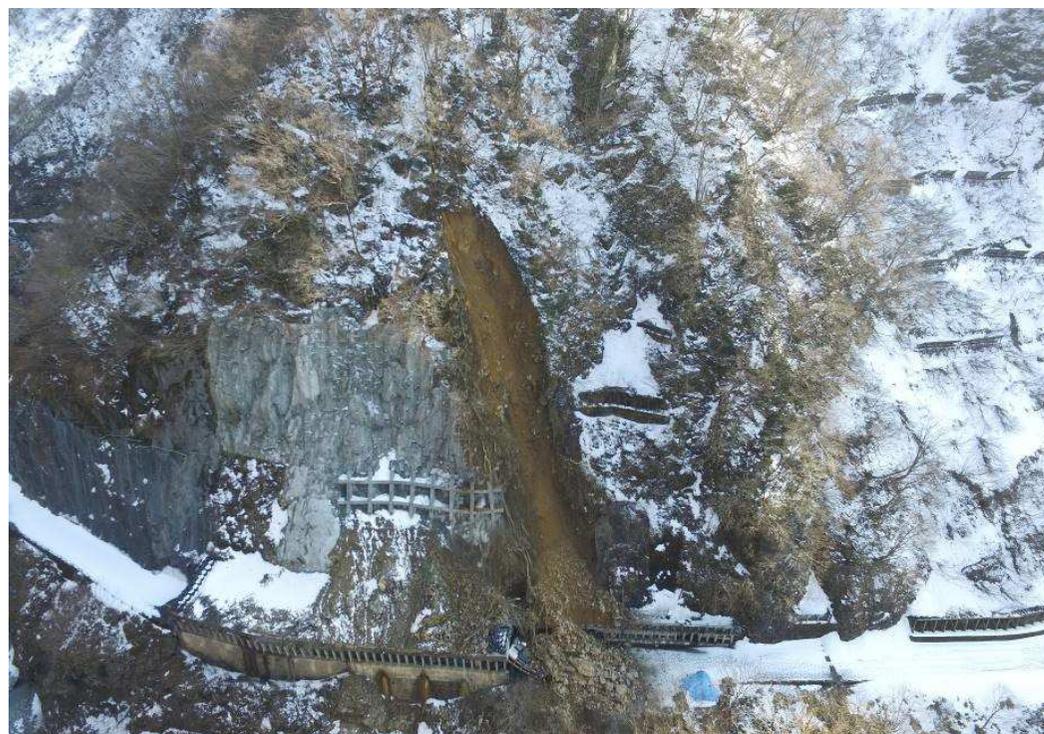


## 2-3. 開発製品セグメント(4/5):トピックスその1

### 災害復旧事例:石川県ホワイトロード土砂崩壊



- 石川県ホワイトロード(白山～白川郷間)で発生した土砂崩壊
- 露岩部への対策としてプラスネット工(約6000m<sup>2</sup>)を受注
- 2020年12月完工



## 2-3. 開発製品セグメント(5/5):トピックスその2

### 土砂災害対策新製品のご紹介

- TSガードフェンス、アズガードフェンスの2工法を6月販売開始予定
- 落石対策製品、雪関連製品に続く新しい商品群と位置付け、すでに営業展開を開始。
- 中～小規模の土砂崩壊対策として年間30億円規模の市場を想定

#### TSガードフェンス施行イメージ



### ASGuard Fence

§ アズガードフェンス主な特徴

Anywhere	Split	Guard
大型重機が不要で崩壊土砂防護柵が設置可能。	支柱と鋼管杭が上下分割式。狭小地への運搬がし易い。	土砂だけでなく落石も(100kJ)捕捉でき、積雪にも対応可能。

## 2-4. 産業機械セグメント:概況(21/3期)

主要顧客の回復により下期は堅調に推移し、通期では利益計上

- 粉末冶金製品
  - ✓ 自動車業界の操業回復に合わせ、年央から徐々に受注が回復し下期は営業黒字にて着地
- 産業機械
  - ✓ 石油化学業界(自動車向け)で一部の設備投資が延期も、メンテナンスサービスの深耕により、通期では例年並みの営業黒字を達成

### セグメント実績

(金額:百万円)

	2020年3月期		2021年3月期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
産業機械	4,269	316	3,197	82	△1,072	△234

## 2-4. 産業機械セグメント:概況(22/3期)

主要顧客の操業・投資回復により受注回復

### ・ 粉末冶金製品

- ✓ 自動車業界、半導体業界向けを中心に堅調に推移の見通し
- ✓ 自動車業界での半導体不足の影響は現時点では未知数も、一定の受注残を抱えており、業績への影響は軽微と想定

### ・ 産業機械

- ✓ 顧客の工程自動化、DX化の動きを捕捉し、受注堅調
- ✓ 一定の受注残を抱えており、例年並みに推移する見通し

セグメント実績

(金額:百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
産業機械	3,197	82	3,700	200	+503	+118

## 2-5. エネルギー不動産セグメント:概況(21/3期)

### 堅調に推移

#### • エネルギー

- ✓ 原油価格の低下に伴い売上高減少も、収益には影響無し
- ✓ コロナ禍により法人向け低調も、巣ごもり需要で一般家庭向けが好調で利益の上積みに寄与

#### • 不動産

- ✓ 一部不動産収入の減少はあるが、巣ごもり需要に伴うショッピングモールの売上連動家賃収入が堅調で利益は維持

### セグメント実績

(金額:百万円)

	2020年3月期		2021年3月期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エネルギー不動産	6,025	507	5,214	602	△811	+95

## 2-5. エネルギー不動産セグメント:概況(22/3期)

堅調に推移

- エネルギー

- ✓ コロナ禍が一定終息することを前提に、需要減からの回復と原油価格の上昇を見込む
- ✓ 原油価格の上昇により増収も、利益はほぼ同一と想定する

- 不動産

- ✓ コロナ対策費や保守修繕費等の費用増により減益

セグメント実績

(金額:百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エネルギー不動産	5,214	602	5,600	500	+386	△102

1. 21年3月期決算、及び今期見通し概要

2. セグメント別概況

3. 成長戦略の進捗

4. 新経営体制

## 3-1. 成長戦略の進捗(1/3):HRBT案件のおさらい

HRBT(ハンプトンロードブリッジトンネル)は北米最大級の案件

- 海上という立地条件に、CFCCの長所である以下4点が合致
  - ①強度、 ②耐腐食性、 ③軽量性、 ④ライフサイクルコスト
- パイル、ビームの双方に採用されたことにより
  - ✓ 利用されるCFCCの総延長:約5,500km
  - ✓ 販売見込額:38百万USD(約40億円)前後

### ハンプトンロードブリッジトンネル拡張事業(完成イメージ)



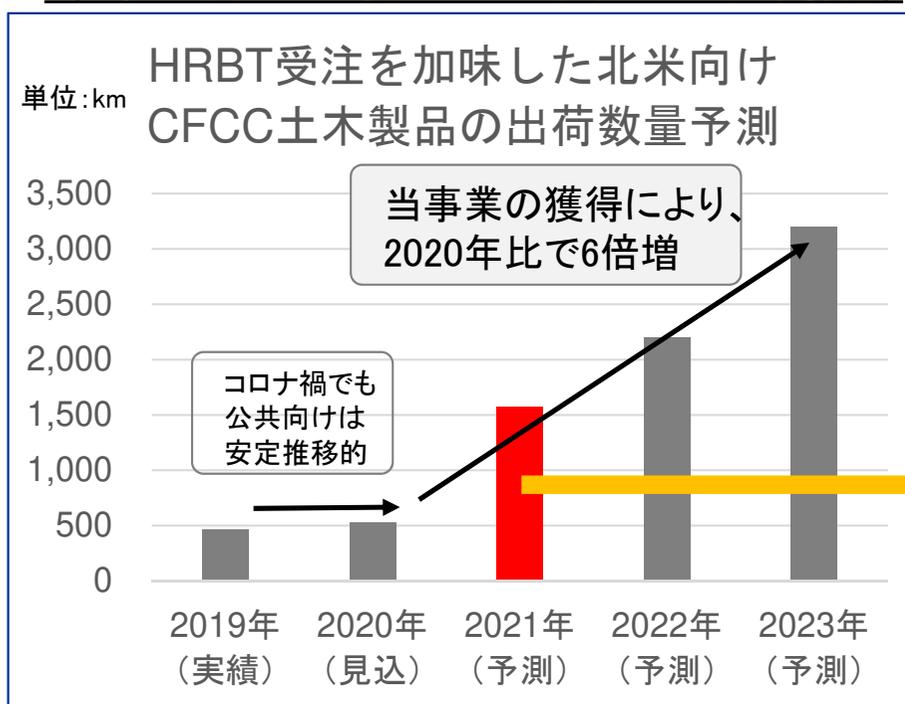
出所)ハンプトンロードブリッジトンネル拡張事業公式サイト <https://www.hrbtexpansion.org/>

## 3-1. 成長戦略の進捗(2/3):北米子会社の出荷状況

HRBT向けを含む北米子会社の売上は順調、初の通期黒字化へ

- HRBT向けを含め、2021年(暦年)の売上は1,350万USDを見通す
- うち1Qは、HRBT案件が立上期にある点やコロナ禍に鑑み150万USDを見通し、大寒波の悪条件をこなして達成率は99.5%で着地

昨年11月26日付プレスリリースより抜粋



北米子会社見通・実績比較(※速報値)

	北米子会社売上額(単位:千USD)		
	見通	実績	差異
2021年1Q	1,500	1,492	▲8
2021年2Q	3,000	-	-
2021年3Q	4,500	-	-
2021年4Q	4,500	-	-
年計(暦年)	13,500	-	-

※HRBT向け以外の多様なCFCC製品を含む

初の通期黒字へ順調な立上り

## 3-1. 成長戦略の進捗(3/3):今後の展開

HRBT獲得を梃に米国内の深耕と日本を含む他国への展開を企図

- 昨年11月のリリース後、国内外の専門家等から多数の照会有り
- HRBT獲得は、今後の受注残の積上げに大きな効果があることをこの半年間で再確認(※現時点での候補案件の公表は不可)
- 当面は、北米とそれ以外(特に日本)でアプローチ対象を変え、HRBT終了後を見据えた受注残の積上げを着実に実施していく

### ●今後展開構想の概念図



## 3-2. SDGsと成長戦略の両立(1/2)

### 企業と社会の持続的な成長の追求

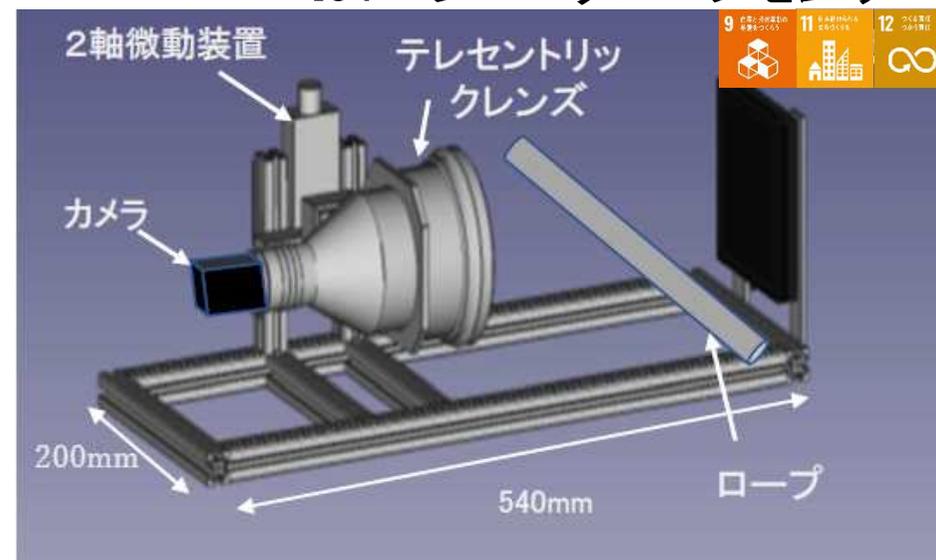


土木用途CFCC®



高耐久ロックボックス護岸

### IoTエレベーターロープセンサー



### 土砂崩落対策用AS Guard Fence



## 3-2. SDGsと成長戦略の両立(2/2)

### 企業と社会の持続的な成長の追求

- 当社グループは、
  - ① 更なる技術革新やイノベーションを通じた安全安心な社会インフラの構築、
  - ② 気候変動への対応、
  - ③ 自然災害の減災・防災、
  - ④ 地球環境保全等への取り組みをより一層加速し、SDGs達成と社会の持続的発展に貢献してまいります
- とりわけ次の7つのゴール達成に大きく貢献できると考えています



1. 21年3月期決算、及び今期見通し概要
2. セグメント別概況
3. 成長戦略の進捗
4. 新経営体制

## 4. 新経営体制

以下の観点から刷新

- 社外取締役を増員しガバナンス強化
  - ✓ 10名の候補中6名が社外
- 多様性への配慮
  - ✓ 2名の女性候補
- 内部昇格者の世代交代
  - ✓ 内部昇格の候補4名の平均年齢は52才  
(昨年の株主総会時の取締役の平均年齢63才(※社外除く)  
から11才の若返り)

次世代の名にふさわしい経営体制へ

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込みその他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。